



# 平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年1月30日

上場会社名 株式会社 木曽路  
 コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 服部 昭仁

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成30年2月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第3四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	32,352	0.2	980		1,027		604	
29年3月期第3四半期	32,416	0.6	108		0		170	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	23.39	
29年3月期第3四半期	6.62	

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	38,638	29,085	75.3
29年3月期	37,732	28,868	76.5

(参考)自己資本 30年3月期第3四半期 29,085百万円 29年3月期 28,868百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		7.00		9.00	16.00
30年3月期		9.00			
30年3月期(予想)				9.00	18.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,600	0.6	2,100	96.1	2,160	82.2	1,180	104.8	45.67

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	25,913,889 株	29年3月期	25,913,889 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

30年3月期3Q	79,384 株	29年3月期	78,700 株
----------	----------	--------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期3Q	25,834,938 株	29年3月期3Q	25,835,806 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第3四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成30年3月期	32,352	980	1,027	604	23.39
平成29年3月期	32,416	△108	0	△170	△6.62
増減率(%)	△0.2	-	-	-	-

当第3四半期累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)におけるわが国経済は、企業収益の増加や雇用環境の改善などから緩やかな回復基調で推移しました。その一方で可処分所得の伸び悩みや物価上昇懸念などから消費に力強さはなく、また、国内外の政治経済動向の不透明感など、依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、円安や物流コストの上昇などによる原材料価格の上昇や人手不足による人件費の増加、また、お客様の嗜好の多様化や食の安全・安心への対応など依然厳しい経営環境で推移しております。

このような経営環境の中で当社は、マーケティングによりお客様の嗜好や期待を把握し、強みである商品力及び接客力を強化するとともに、原材料の仕入から消耗品などの購入の見直しを継続しました。また、営業時間の短縮、勤務シフトの見直しや機械化(IT化)を進め、生産性の向上とともに働きやすい職場づくりに努めました。

店舗展開、改築・改装につきましては、1店舗の新規出店、1店舗の退店を実施し、その結果、当第3四半期会計期間末の店舗数は163店舗(前年同期比1店舗減少)となりました。

営業面では、歓送迎会の予約獲得、当社の強みであるハレの日需要の取り込みを強化するとともに、多様化するお客様ニーズにお応えするため料理の品質向上やメニューの見直しに取り組みました。また、25年ぶりにTVCMを刷新し、昨年10月より放映しています。新CMでは、祝事をはじめとする、これまで粛々と継承してきた日本伝統文化を、外国人の目線を通して描いています。

費用面では、食材やメニューの見直し、ロス管理により原価率を改善し、出退勤時間・人員配置など勤務シフトの見直しにより人件費率が低下しました。また、広告・販促方法の見直しや消耗品などの購入見直しを継続し、効率化、最適化に努めました。

また、ご来店されたお客様に安心してお食事を楽しんで頂くこと、地域社会への貢献を目的として、平成29年7月までに「AED(自動体外式除細動器)」をしゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」全店118店舗、本社及び名古屋工場の120箇所に設置いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は323億52百万円(前年同期比0.2%減少)、営業利益は9億80百万円(前年同期実績1億8百万円の損失)、経常利益は10億27百万円(同0百万円)、四半期純利益は6億4百万円(同1億70百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曽路	27,328	27,241	△0.3
素材屋	1,667	1,636	△1.9
じゃんじゃん亭	1,522	1,725	13.3
とりかく	850	786	△7.6
鈴のれん	697	670	△3.8
その他	350	292	△16.8
計	32,416	32,352	△0.2

#### 木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は118店舗（前年同期末比1店舗減少）であります。

営業面では、顧客の裾野拡大を試みる新提案として上半期に「黒豚しゃぶしゃぶ」の販売や好評を得ている「北の幸まつり」、秋の「収穫祭」を実施するとともに、歓送迎会・忘新年会などの法人顧客へのアプローチを実施しました。また、25年ぶりにTVCMを刷新し、「美味しいしゃぶしゃぶを、心地良い空間で楽しんでいただき、少し贅沢な時間を過ごしていただきたい」そんな木曽路のブランドプロミスを新CMで訴求しました。しかしながら、前事業年度末に1店舗の退店をした結果、売上高は272億41百万円（前年同期比0.3%減少）となりました。

#### 素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は14店舗であります。

営業面では、味噌串かつ・手羽先のから揚げなどの名古屋めしやこだわりの炭火串焼き、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、様々な宴会のニーズにお応えするための個室やお値打ちなコース料理をご用意し営業活動を行いました。売上高は16億36百万円（同1.9%減少）となりました。

#### じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の新規出店により、当第3四半期会計期間末店舗数は14店舗（前年同期末比1店舗増加）となりました。

営業面では、「手切り、熟成肉、黒毛和牛」にこだわり、食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、法人や学生のイベントなどに合わせたメルマガの配信や学生応援企画など予約獲得活動に努めました。その結果、前事業年度年中に3店舗の出店もあり、売上高は17億25百万円（同13.3%増加）となりました。

#### とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、1店舗の退店により、当第3四半期会計期間末店舗数は9店舗（前年同期末比1店舗減少）となりました。

営業面では、「手作り」、「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた食材の宴会メニュー、お客様ニーズの高い飲み放題プランを複数用意し、来店客数の増加に努めましたが、売上高は7億86百万円（同7.6%減少）となりました。

#### 鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は6店舗であります。

営業面では、御膳や季節毎のメニューを充実し、各種宴会メニューやしゃぶしゃぶまたはすきやきの食べ放題メニューをご用意、また慶弔などの行事に対応したメニューと人数に合わせた多様なお席を準備し、来店客数の増加に努めましたが、売上高は6億70百万円（同3.8%減少）となりました。

#### その他部門

その他部門は、ワイン食堂の「ウノ」、九州味巡りの「ここの」、外販（しぐれ煮、胡麻だれ類）、不動産賃貸等であります。

前年同期中にワイン食堂の「ウノ」を5店舗退店したこともあり、その売上高は2億92百万円（同16.8%減少）となりました。

**(2) 財政状態に関する説明**

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成29年3月31日現在)	当第3四半期 (平成30年12月31日現在)	増 減
総資産(百万円)	37,732	38,638	905
純資産(百万円)	28,868	29,085	217
自己資本比率(%)	76.5	75.3	-
1株当たり純資産(円)	1,117.42	1,125.85	8.43

当第3四半期会計期間末の総資産は386億38百万円で前事業年度末比9億5百万円の増加となりました。主な要因は、棚卸資産が減少する一方で、固定資産の取得額が減価償却費等を下回ったことにより現金及び預金が増加、また季節的要因により売掛金が増加したことによるものであります。負債は、95億52百万円で前事業年度末比6億88百万円の増加となりました。これは未払法人税等、賞与引当金が減少する一方で、季節的要因により買掛金等が増加したことによるものであります。また、当第3四半期会計期間末の純資産は290億85百万円で前事業年度末比2億17百万円の増加となりました。主な要因は、四半期純利益6億4百万円(増加)、剰余金の配当4億65百万円(減少)であります。

以上の結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は75.3%(前事業年度末は76.5%)、1株当たり純資産は1,125.85円(同1,117.42円)となりました。

**(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明**

業績予想につきましては、平成29年7月28日公表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,727	14,632
売掛金	1,063	1,599
商品及び製品	51	68
原材料及び貯蔵品	940	759
その他	846	687
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	16,629	17,747
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	6,025	5,663
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,412	1,319
有形固定資産合計	13,161	12,706
無形固定資産	120	198
投資その他の資産		
差入保証金	4,559	4,466
その他	3,292	3,549
貸倒引当金	△30	△31
投資その他の資産合計	7,821	7,985
固定資産合計	21,103	20,890
資産合計	37,732	38,638
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,258	2,094
短期借入金	920	920
未払法人税等	548	88
賞与引当金	492	213
その他の引当金	333	337
その他	2,392	2,961
流動負債合計	5,945	6,615
固定負債		
退職給付引当金	985	987
資産除去債務	1,311	1,312
その他	622	636
固定負債合計	2,919	2,937
負債合計	8,864	9,552
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	8,775	8,915
自己株式	△122	△124
株主資本合計	28,585	28,722
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	283	363
評価・換算差額等合計	283	363
純資産合計	28,868	29,085
負債純資産合計	37,732	38,638

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	32,416	32,352
売上原価	10,840	10,336
売上総利益	21,575	22,015
販売費及び一般管理費	21,684	21,034
営業利益又は営業損失(△)	△108	980
営業外収益		
受取利息	12	14
受取配当金	24	20
協賛金収入	12	2
固定資産受贈益	-	12
その他	74	10
営業外収益合計	124	60
営業外費用		
支払利息	5	5
賃貸借契約解約損	1	3
その他	8	5
営業外費用合計	14	13
経常利益	0	1,027
特別利益		
投資有価証券売却益	202	-
特別利益合計	202	-
特別損失		
固定資産売却損	1	-
固定資産除却損	14	5
減損損失	219	5
特別損失合計	234	10
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△31	1,017
法人税、住民税及び事業税	88	260
法人税等調整額	51	152
法人税等合計	139	412
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△170	604



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。